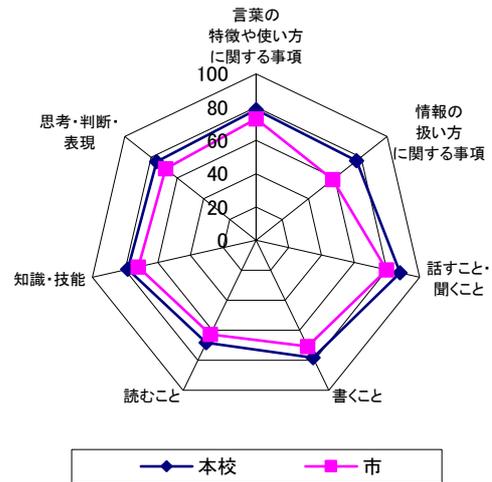


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.5	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	76.5	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	88.1	79.8	75.9
	書くこと	78.3	70.7	71.7
	読むこと	68.3	62.8	62.5
観点別	知識・技能	78.4	72.0	74.4
	思考・判断・表現	75.7	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○校内正答率は78.5%で、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ●三字の熟語の構成に関する問題の正答率は71.6%で、市の正答率を6.5ポイント下回った。 ●尊敬語に関する問題の正答率は37.0%で、市の正答率を1.0ポイント下回った。	語彙を豊かにしたり、語感を磨いたりすることが大切である。日々の授業の中で、多くの文章を繰り返し読んで優れた表現に触れたり、自分の表現に生かしたりして、語感や言葉の使い方に関する感覚を養いたい。また、相手と自分との関係を意識しながら、敬語について理解することが重要である。日常生活の場に加えて、地域の方々や保護者と関わる学校行事等の場において、話をしたり、案内やお礼の手紙を書いたりするなどの経験を積み重ねていくことで、相手や場面に応じて適切に敬語を使えるようにしたい。
情報の扱い方に関する事項	○校内正答率は76.5%で、市の正答率を18.0ポイント上回った。	情報と情報との関係について理解するためには、様々な情報の中から原因と結果の関係を見出し、結び付けて捉えることが重要となる。指導の効果を高めるために、筋道の通った文章を書く単元において、文章全体の構成や展開を考える時間を十分にとりたい。また、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に明確にし、文章全体の構成から要旨を把握する活動に重点を置いて授業を展開したい。
話すこと・聞くこと	○校内正答率は88.1%で、市の正答率を8.3ポイント上回った。	児童はこれまでに、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする活動を経験してきた。その中でも、異なる立場からの考えを聞き合うことで、互いに意見を広げたりまとめたりすることを大切にしてきた。今後も継続的に行っていききたい。
書くこと	○校内正答率は78.3%で、市の正答率を7.6ポイント上回った。 ●市の平均は超えたものの、意見を述べる文章を書く問題は7割に届かなかった。	意見を述べる文章では、理由や事例を明確にしながらか筋道を立てて自分の考えを述べたい。自分とは異なる立場の読み手に向けて主張する文章や、自分たちの生活をより良いものにするために提案する文章、事物のよさを多くの人に推薦する文章など、様々な目的や形式の文章を書く活動が重要である。また、互いの書いた文章を読み合い、よいところを見付け合う活動を通して、それらを自分の表現に生かすことができるよう支援したい。
読むこと	○校内正答率は68.3%で、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ●物語の内容を読み取る問題の正答率は79.0%で、市の正答率を0.4ポイント下回った。	物語文においては、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の様子は、相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もあるため、表現の仕方に注意して、想像を豊かにしながら読むことができるように授業を展開していきたい。